

立命館宇治中学校・高等学校 2025年度学校目標年度末報告シート

■スクール・ミッション

学校法人立命館は、建学の精神に「自由と清新」、教学理念に「平和と民主主義」を掲げて歩んできました。2006年に制定された立命館憲章は立命館大学と附属校全体の教育研究活動の根幹となるものです。立命館憲章は単に形式的に定められたものではなく、立命館学園を構成するすべての学生・生徒・児童、教職員に共有されるべきものであり、これを本校のスクール・ミッションと位置付けます。

■教育目標

立命館宇治中学校・高等学校は、立命館の建学の精神「自由と清新」と、教学理念「平和と民主主義」に基づき、卓越した言語能力に基づく知性と探究心、バランスのとれた豊かな個性、正義と論理に貫かれた寛容の精神を身につけた未来のグローバルリーダーを育成し、世界と日本の平和的发展に貢献する。

■スクール・ポリシー

1 入学者の受入れに関する方針 Admission Policy

- 1 本学の建学の精神、教学理念を理解し、本校のスクールミッションに共感できる児童・生徒
- 2 本校での学びに高い関心を持ち、探究心と好奇心をもって学習に臨む児童・生徒
- 3 多様な生活体験や考えを持つ人々と、話し合い、認め合う精神を有する児童・生徒

さらに、海外での生活体験や、文化・芸術・スポーツにおいて顕著な活動実績を有し、学校コミュニティ全体を豊かにするリーダーシップや協調性を持ち合わせ、多様な集団の一員として活躍する児童・生徒を歓迎します。

2 教育課程の編成及び実施に関する方針 Curriculum Policy

- 1 基礎学力を育み、将来の進路を見据えて個々に応じた幅広い学習に取り組むことができる教育課程を編成します。
- 2 国際社会において通用する、日本語と英語を中心としたコミュニケーション能力を修得することができる環境を提供します。
- 3 自分と異なる生活体験や考えを持つ人々と交流し、多様な価値観に触れることができる環境を提供します。
- 4 スポーツや自主活動に積極的に取り組み、また、取り組む仲間の活躍を応援する精神を育むための環境を提供します。
- 5 興味・関心のある事柄を掘り下げて探究し、発展・具現化を目指した活動に取り組むための支援を行います。
- 6 多様な価値観を持つ集団において、互いに尊重しあい、崇高な道徳心や倫理観を育むための教育を実施します。

3 育成を目指す資質・能力に関する方針 Diploma Policy

- 1 大学などでの高等教育を受けるにふさわしい基礎学力と倫理観を有している。
- 2 多様な社会で通用するコミュニケーション能力と異文化理解に対する教養を身につけている。
- 3 国内外の課題について自ら解決に向けて実践する能力と精神を身につけている。
- 4 グローバルな視点で社会貢献する精神と行動力・発信力を身につけている。

■重点課題

- I. 豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成
- II. 高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成
- III. 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成
- IV. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成
- V. 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランドの確立と生徒募集力の向上
- VI. 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備

I. 豊かな教養と確かな学力を身に付け、主体的に学び・考える姿勢をもった生徒の育成

達成目標(当年度目標)		評価
(ア)	学力指標の向上とそのための観点別評価制度の構築と運用	○
(イ)	生徒が能動的に参加する授業スタイルへの転換	◎
(ウ)	学習を支えるさまざまなリソースを活用した学習モデルの構築	◎
(エ)	学園内外との連携による価値観を揺さぶる教育	◎
(オ)	中高6年間を通した「探究」プログラムの研鑽と発展	○
(カ)	WWL 拠点校として構築したネットワークと経験の継承	◎
(キ)	中学 IP 教育の実践と高校 IB 教育の連携強化	◎
(ク)	新しい教育課程の開発	△
(ケ)	DX予算を活用した環境整備と教育実践	○
(コ)	大学・学部との連携講座の充実	◎
(サ)	適切な進路指導の提供と支援・強化	◎
(シ)	海外大学への進路指導の対応強化	◎

II. 高い外国語運用力と広い視野をもって、異文化を理解できる能力をもった生徒の育成

達成目標(当年度目標)		評価
(ア)	安全に留意し、質の高い留学派遣の実現	◎
(イ)	魅力ある海外研修旅行の企画運営	◎
(ウ)	留学生の積極的な受入れと環境整備の充実	◎
(エ)	学校内外での新たな異文化体験の機会の模索	◎
(オ)	帰国生へのきめ細やかなカウンセリングの実施	○
(カ)	多様な背景を持つ帰国生への学習支援	○
(キ)	高い語学力を持つ生徒の更なる引き上げ	◎
(ク)	高校3年生 TOEFL430 点の全員達成	△
(ケ)	英語を活用した取り組みの開催	◎
(コ)	第二外国語の取り組みの推進	◎

Ⅲ. 高い倫理観と規範意識を備え、強い責任感で社会や世界に貢献できる生徒の育成

達成目標(当年度目標)		評価
(ア)	DEI(Diversity、Equity & Inclusion)の深化	○
(イ)	挨拶、装い(制服着用)、清掃、持ち物管理等、基本的生活習慣の確立と共同生活に配慮できる指導の推進	○
(ウ)	学校への帰属意識と誇りを実感できる取り組みの実施	○
(エ)	地球市民として SDGs を念頭に活動・生活できる指導の推進	◎
(オ)	生徒会・ホームルーム運営委員会など生徒の自主活動組織の活性化	◎
(カ)	学園祭など、生徒が自発的に運営できる企画の推進	◎
(キ)	生徒相互の奮闘を励まし合える関係づくり	◎
(ク)	科学的で合理的な自主活動指導方法の研究	○
(ケ)	学業・学校生活との両立できるバランスの取れた課外活動の参画推進	○
(コ)	中高大の接続を意識したクラブ活動の推進・改革と効果的運用	○
(サ)	平和、人権、環境を考える取り組みの実施	◎
(シ)	インターネット・SNS との関わり方を学ぶ機会の提供	○
(ス)	いじめや非行などを許さない意識醸成と教員による早期発見・対応	○

Ⅳ. 向上心を持って自己研鑽に努め、協働のもと新しい学校づくりを目指す教職員集団の形成

達成目標(当年度目標)		評価
(ア)	研修(校内・校外)への参加	○
(イ)	研究授業・公開授業・研究会の開催	○
(ウ)	課題を共有し、建設的思考をもって互いを支え合うことができる教員集団	○
(エ)	生徒指導力と保護者対応力の向上	○
(オ)	チームワークとフォローアップを生かした業務の効率化	○
(カ)	休日・休養日の確保	△
(キ)	R2030後半期に向けた 2026 年度からの学校経営計画の策定	◎

Ⅴ. 地域・保護者との信頼関係に裏打ちされた学校ブランドの確立と生徒募集力の向上

達成目標(当年度目標)		評価
(ア)	土曜市民講座・スポーツ教室・小学生体験講座の実施	△
(イ)	公共交通機関利用マナー向上	○
(ウ)	周年行事に向けた外部企業・団体との積極的な関係の構築	◎
(エ)	丁寧な懇談会・説明会の実施による相互理解の促進	◎
(オ)	保護者アンケート・生徒アンケートによる実態把握	◎
(カ)	卒業生のつながりの具現化と可視化	○
(キ)	卒業生の活躍の広報	○
(ク)	附属3校の共同歩調を強めた取り組みの展開	○
(ケ)	国際教育、寮保有の優位性を打ち出した国内外の募集活動の工夫	◎
(コ)	本校の魅力を伝えるパンフ・WEB 広報の強化	◎
(サ)	高い能力を持つ英語学習者の誘引	○
(シ)	質の高い低年齢教育の実現	○
(ス)	本校生徒募集への接続強化の見直しと工夫	○

VI. 魅力ある教育を支える体制や生徒が安心・快適に学ぶことができる学習環境の整備

達成目標(当年度目標)		評価
(ア)	保健室を中心としたココロとカラダの健康に配慮した連携	◎
(イ)	教育相談・ケース会議・カウンセリング体制の連携	◎
(ウ)	生徒・教職員が安全安心に過ごせる施設環境の整備	○
(エ)	学習環境改善と機能の合理化	◎
(オ)	修繕・危険箇所の集約	○
(カ)	避難訓練の実施と大規模災害等を想定した防災対策	◎
(キ)	生徒引率における安全確保	◎
(ク)	迅速な事故対応	◎
(ケ)	寮生の健康管理と安心と安全を第一にした寮運営	◎
(コ)	学習する雰囲気づくり	○
(サ)	共同生活者としての連帯を生む自治組織づくり	◎
(シ)	新生徒寮における具体的方針の策定	◎

達成状況

今年度は「主体的に学ぶ生徒の育成」を軸に、授業改革・探究教育・国際教育が一体となって進展した。授業においては、ディスカッションやプレゼンテーションを取り入れた生徒主体の学習活動が広がり、思考力や表現力を重視した学びへの転換が進んだ。ICTの活用も日常化し、課題提出や振り返りにより学習の可視化が進んだ。 探究活動では、QUESTやコア探究、GLSを中心に、企業連携探究や高校での論文作成・発表など、生徒が自ら問いを立て社会に発信する力の育成が進んだ。さらに、模擬国連や外部コンテストへの参加・受賞など、探究成果の対外的発信も拡充した。国際教育の面では、IMコースの長期留学や海外研修、国際会議への参加などにより、英語を活用した実践的な学びが充実し、TOEFLスコアの向上やIBDP最終試験の平均点過去最高水準到達、海外大学進学者の増加といった具体的成果が見られた。 課外活動においては、WOWプログラムや体育行事、生徒主体の委員会活動などを通して、多様な体験機会が提供され、例えば年間60を超えるプログラムの実施により、生徒が社会や多様な価値観に触れる機会が大きく広がった。また、学芸祭や体育大会における生徒主体の運営を通して、リーダーシップや協働性の育成も進んだ。さらに、DXハイスクール事業を活用した教育環境整備やメタバース・動画発信の取り組み、新生徒寮の整備などにより、本校の教育の特色が一層明確化された。これらは学校の魅力発信にもつながり、生徒募集の基盤強化という観点からも重要な成果であった。
--

課題

新教育課程の開発は検討段階にとどまっており、今後は具体的なカリキュラム設計と実施に向けた計画的な推進が求められる。進路指導についても、進路部の設置により基盤は整いつつあるものの、学年・コース間の連携や役割分担の明確化、海外大学進学支援のさらなる充実が課題である。 また、教育活動の充実に伴う教職員の業務負担の増加も課題であり、業務の効率化や役割分担の見直し、組織的な運営体制の強化が必要である。加えて、生徒募集については、教育実践の成果をより戦略的に広報へと結びつける取り組みの強化が求められる。 今後は、これらの課題を踏まえ、教育課程・探究・国際教育・進路指導・課外活動・広報を一体的に捉え、学校全体の教育構造の再設計と持続可能な運営体制の構築を進めていく必要がある。
--

■学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	亀田 晃巖 氏(元副校長、元(学)立命館常務理事)、池谷 一郎 氏(教育後援会 会長) 田上 佳代 氏(保護者会 会長)、出雲 健彦 氏(鳳凰会 会長)、チャールズ フォックス 氏(元校長) 森田 真樹 氏(立命館大学大学院 教職研究科 教授)、八木 誠 氏(学校法人立命館一貫教育部部長) 浮田 恭子 氏(元副校長)、金光 健一 氏(元中学教頭)
開催日程 主な議題	第1回:2025年6月19日(木)11:30～13:30 2025年度教育活動方針について、WOWプログラム見学 第2回:2026年3月26日(木)10:00～12:00 2025年度教育活動総括について、高校新寮見学
評価・ 改善 事項	今年度の教育活動の進展を評価しつつ、今後に向けた課題として下記の点について確認した。 ・2030年を見据えた学校像・育成する生徒像・到達目標の明確化と教育の一体的再設計 ・中高6年間を通じた探究・国際教育の一貫化と内部生・外部生の融合による教育連続性の強化 ・生徒の成長を統合的に把握する仕組みの整備と教育活動の質的向上 ・SNS活用や専門的手法による広報強化と大学連携・卒業生発信を含むブランド力向上 ・新寮運営や海外研修等に対応した安全管理・リスクマネジメント体制の再構築 ・教員の業務負担軽減に向けた重点化・組織体制見直しと次期学習指導要領を見据えた教育課程改革